

第6回旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会

日 時：令和3年5月19日（水）

午前10時～正午（予定）

場 所：市役所本庁舎7階全員協議会室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

- (1) 「一定の方向性」を示すまでの手順（予定）について・・・資料1
- (2) 市民ワークショップについて ・・・・・・資料2-1、2-2

4 その他

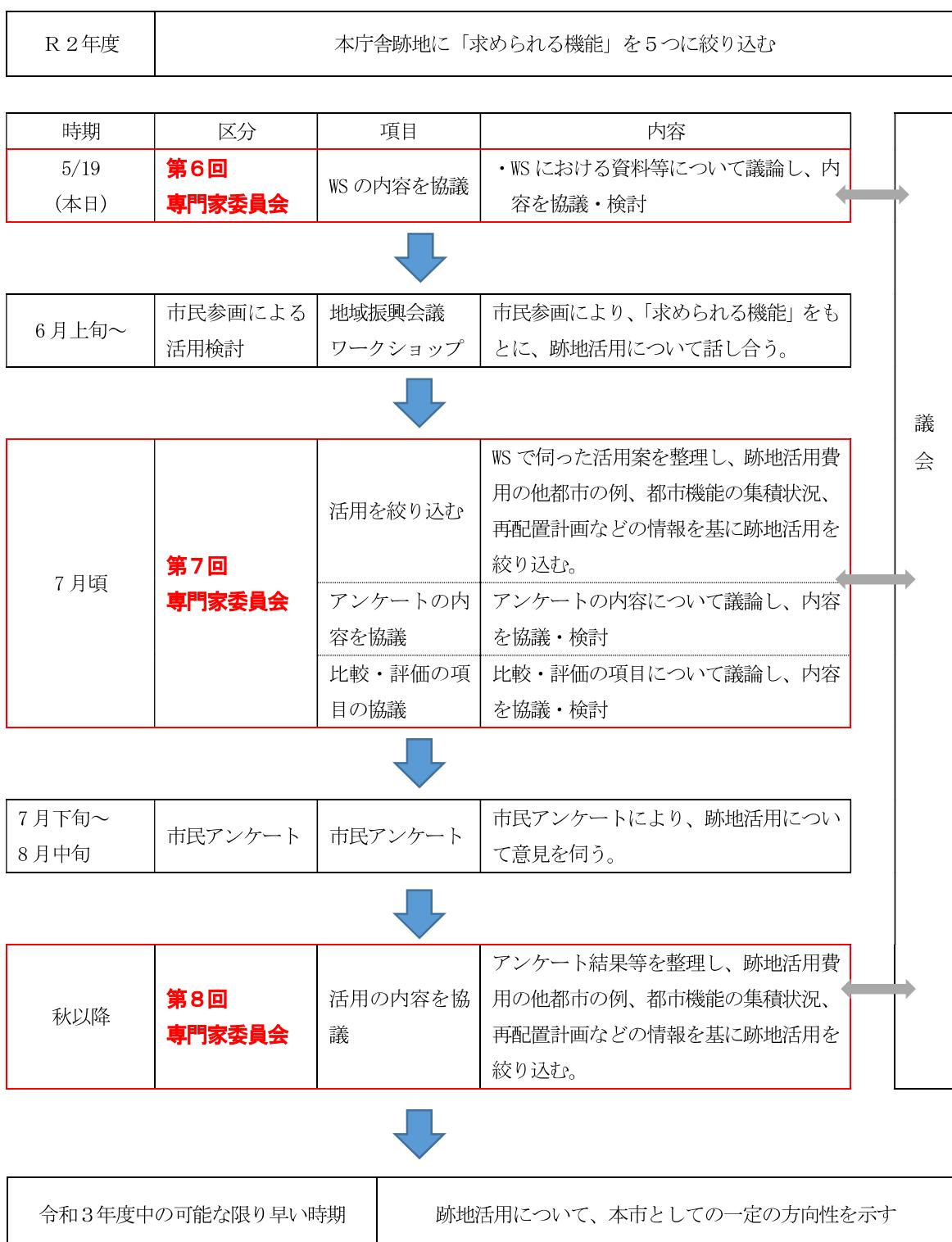
5 閉 会

「旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会」委員

【順不同・敬称略】

役職	氏名	所属	出欠
委員長	柳 年哉	公立鳥取環境大学 経営学部 教授	出
副委員長	福山 敬	鳥取大学 工学部 教授	出
委員	飯野 公央	島根大学 法文学部 准教授	出
委員	木田 悟史	公益財団法人日本財団 鳥取事務所 所長	出
委員	堤 洋樹	前橋工科大学 工学部 准教授	出 (Web)
委員	湯口 夏史	湯口一文税理士事務所 税理士	出

「一定の方向性」を示すまでの手順（予定）について



資料 2-1

日本「舍等跡地活用に賜する 市民ワークショップ」

令和3年6月

本日のプログラム



1. 開会あいさつ
2. 本日のワークショップの進め方
3. 跡地活用における市の考え方
4. テーブルワーク（約100分）
 - (1) 跡地活用に対する希望（各自）
 - (2) 跡地活用を絞り込む（話し合い）
 - (3) 跡地活用をまとめよう（話し合い）

⇒発表
5. 意見交換（約30分）
6. 閉会あいさつ

■ 本日の進め方

本日のテーマ：跡地活用についてみんなで話しあう 話し合いの内容等	
時間（目安）	本日の進め方について説明 跡地活用における市の考え方
10分	<p>【以下各テーブルで進行】</p> <p>※トイし休憩は適宜</p> <p>1.自己紹介 ※簡単に 2.5つの機能について跡地活用を考えよう（各自考え て付箋に記入・順番に発表） 3.話し合い（活用の絞り込み） 4.確認・まとめ 5.テーブルごとに発表（3分ずつ）※発表者を決める</p>
100分	1.全員で意見交換（共通項を探す） 2.振り返り・確認
30分	

テーブルワーク（約100分）

（1）自己紹介

- ・名前、住所（お住いの地区）など、簡単に（一人5～10秒程度で）

（2）5つの機能について跡地活用を考えよう

5つの機能	ワークショップ等でいただいた主なご意見
教育・学習・芸術・文化	カルチャーセンター、専門学校、図書館、美術館、音楽ホール、多目的ホールなど
医療・福祉・健康増進	病院、クリニック、保育所、スポーツ施設など
憩いの場・コミュニティ	公民館、コミュニティセンター、自由に出入りできる屋内スペースなど
娯楽・レジャー	映画館、プラネタリウムなど
オープンスペース	公園、緑地、広場など
災害時に市民の避難施設等、防災・減災施設として活用することを前提とし、 平常時の活用 について話し合ってください	

•

テーブルワーク（約100分）



1) 5つの機能の活用状況を教えてください (10分)

- ・ 活用の例を参考に、あなたがよく活用（週1回程度以上）するものの、**時々活用（月1～2回～年数回程度）**するものを教えてください
- ・ 青色の付箋に書いて、模造紙の該当する欄に貼ってください
- ・ 1枚に1つの活用を記入してください

2) 必要と思う跡地活用を教えてください (30分)

- ・ 活用の例を参考に、**必要と思う跡地活用を桃色の付箋に記入してください** (1人5枚程度)
- ・ **※必要と思う機能の欄のみ記入してください**
- ・ 1枚に1つの活用を記入してください
- ・ 順番に発表しながら、模造紙の該当欄に貼ってください

テープルワーク（約100分）

機能	活用の例	週1回程度以上活用するもの		時々活用するもの		必要と思う跡地活用
		●●●	●●●	●●●	●●●	
教育・学習術	カルチャーセンター、専門学校、図書館、美術館、多目的ホールなど	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●
医療・福祉	病院、クリニック、保育所、スポーツ施設など	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●
憩い・ユニーク	公民館、コミュニティセンター、自由出入りできる屋内スペースなど	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●
娯楽・レジャー	映画館、プラネタリウムなど	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●
オーブンスペース	公園、緑地、広場など	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●

テーブルワーク（約100分）

（3）みんなで話し合い、跡地活用を絞り込むも（3・4で50分）

- 活用の目的の確認（何のために・・・誰のために・・・）
- 目的を達成するための活用の絞り込み
- ※必要な場合は●シール塗布（投票）等により絞り込んでください
- 図面等を活用し、跡地の規模（約8,500m²）・形状等を踏まえながら活用
- イメージを確認

（4）確認・まとめ

- 話し合いの結果を模造紙に文章で、記入しましょう

跡地活用の目的	跡地活用
●●を達成（推進）するため、跡地活用します ●○や△△として活用します	●●を達成（推進）するため、跡地活用します ●○や△△として活用します

→テーブルごとに発表していただきます。（10分）

意見交換（約30分）

(1) 意見交換・質疑応答

- 各テーブルの発表を踏まえて、全員で意見交換をしましょう
- 意見交換しながら、みんなでイメージアップ、意見の共有化を可能な範囲で図っていきましょう

(2) 振り返り・まとめ

- 結果の確認
- 今後の予定など

■ ワークショップについて

「ワークショップ」とは？

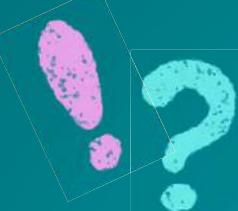
市民参画により手づくりに
ついて話し合う手法の一つです。
参加者が主役になつて、自分一
と他の参加者とのコミュニケーション
を通じて様々な発想や考
え方の相乗効果が生まれ、創造が
な氣づき・学び・交流・創造が
できる場です。

ワークショップの流れ

- ・ テーマに則して率直に話します
- ・ 相手の意見を否定しないようにします
- ・ 自分と違う意見も尊重し、お互いに学びます
- ・ 合う場にします
- ・ みんなが平等に意見を出し合えるよう、協
力します
- ・ 楽しみます
- ・ 意見を一つにまとめるものではありません



みんなで
考えましょう



鳥取市の将来 ～日本庁舎等跡地の活用～



令和3年6月
鳥取市





目 次

鳥取市旧本庁舎等跡地について

1

旧本庁舎等跡地の概要

土地利用規制など

鳥取市の現状や考え方

2

財政・人口見通し

公共施設経営（ファシリティマネジメント）

跡地活用に関する考え方

これまでいただいたご意見

跡地活用に係る市民のご意見

7

市民参画による検討状況

市民アンケートの結果

今後の予定

11



★★★ 鳥取市旧本庁舎等跡地について

旧本庁舎等跡地の概要



位置：鳥取市尚徳・上魚町
面積：約8,500m²

本庁舎跡地

第二庁舎跡地

本庁舎跡地

第二庁舎跡地



本市の中心市街地に位置し、「歴史・文化等を有する観光交流、豊かな居住の舞台」をエリ アコンセプトとする、本市の飛躍・発展に貢献する重要な場所です。

土地利用規制など

	本庁舎跡地	第二庁舎跡地
用途地域	商業地域	商業地域
容積率/建蔽率	400/80 (一部500/80)	400/80 (一部500/80)
地区計画	尚徳町地区地区計画※1	—
景観形成重点地区	久松山山系景観形成重点区域※2	—

※1 地区計画により、次の建築物は、建築を制限されています。

- (1) 工場
- (2) ボーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場、バッティング練習場
- (3) ホテル又は旅館
- (4) 自動車教習所
- (5) 畜舎（15m²を超える）
- (6) マージャン屋、パチンコ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの
- (7) 倉庫業を営む倉庫
- (8) 危険物の貯蔵又は処理に供する建築物
- (9) キャバレー、料理店、ナイトクラブ、ダンスホールその他これらに類するもの
- (10) 個室付浴場業に係る公衆浴場 など

※2 景観形成重点地区に指定し、周辺の緑や歴史的建造物等との調和を図る地区と位置付けています



鳥取市の現状や考え方



市の現状

1

財政の見通しは？

- 本市は、「選択と集中」による財政運営を実践
- 新型コロナウィルス感染症の地域経済への影響等で、厳しい財政運営になることが予想
- 中長期的な展望に立ち、計画的な財政運営を進める

出典：第11次鳥取市総合計画

✓ 市債残高（借入金残高）と公債費（毎年の返済額）を削減します

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
市債残高	770億円	781億円	768億円	721億円
公債費	102億円	60億円	58億円	53億円
市債(新規借入)	42億円	109億円	50億円	40億円

※平成23年度は一般会計決算、令和3年度は当初予算、以降は財政見通し（以下同じ）、市債は一般事業分（臨時財政対策債を除く）

✓ 緊急的な収入減などに対応する基金（貯金）を積み立てます

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
財調基金等	24億円	42億円	50億円	51億円

※不測の事態に備えるための財政調整基金と減債基金の合計残高を50億円以上（令和7年度末）とする

✓ 地域経済の活性化や市民所得の向上に取り組みます

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
市税収入	239億円	225億円	236億円	236億円

✓ プライマリーバランス（基礎的財政収支）を黒字化します

※当初予算における市債以外の収入と公債費を除く支出の収支（臨時財政対策債除く）

【参考】財政規模

項目	平成23年度	令和3年度	令和7年度	令和12年度
一般会計(歳出)	888億円	964億円	926億円	909億円
うち扶助費	151億円	206億円	211億円	216億円
うち建設費	96億円	133億円	96億円	86億円

※コロナ対策制度融資を除く（R3:143億円、R7:76億円、R12:8億円）、建設費は普通建設事業費と維持修繕費の合計



■市の現状

2 人口の見通しは？

本市の人口は、少子化や転出超過等から、H17年の国勢調査人口20万1,740人をピークに減少傾向

R7年には18万2,777人、R12年には17万7,621人に減少すると見込む

出典：第11次鳥取市総合計画

項目	平成17年	→	令和2年	→	令和7年	→	令和12年
人口(人)	201,740		188,717		182,777		177,621

■跡地活用に関する市の考え方

3 公共施設の経営は？

「鳥取市公共施設再配置基本計画」により公共施設経営（ファシリティマネジメント）に取り組む。

目標：40年間(令和36年度)で、施設面積約29%削減

▶複合化・多機能化は？

- 1 施設1機能ではなく、複合化・多機能化
- 基点性を高め、稼働率・利用率を向上

▶民間活用は？

- 民間資本やノウハウの活用を推進
- 市民・民間事業者からの提案制度等の導入を検討し、公共施設経営に参画しやすい環境づくりに取り組む



4

これまでの議論の整理

- ✓ 本市のにぎわいづくりにつながる活用策とする。
- ✓ 利用者が限定されないような活用を図る。
- ✓ 市の財政負担を極力少なくする。
- ✓ 若者の流出抑制・定住促進につながる利用を図る。
- ✓ いかなる活用を行う際でも、防災・減災機能は取り入れる。
- ✓ 既存の施設（機能）がある場合は、棲み分けを考慮する。
- ✓ 市民会館は、当面、存続するものとして考える。
- ✓ 歴史・文化ゾーンにふさわしい利用については、市民アンケートで多くなかつたため、その利用に限定しない。
- ✓ 複合化・多機能化の活用の検討は妨げない。
- ✓ 活用の手法（民間活用など）について考慮する必要は無い。（活用手法は、活用策実現にあたり市で判断する。）など

これまでいただいた主なご意見

1

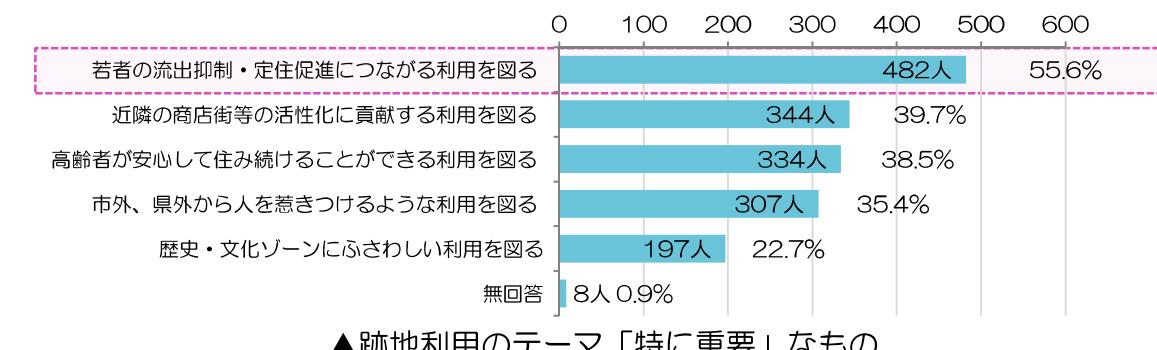
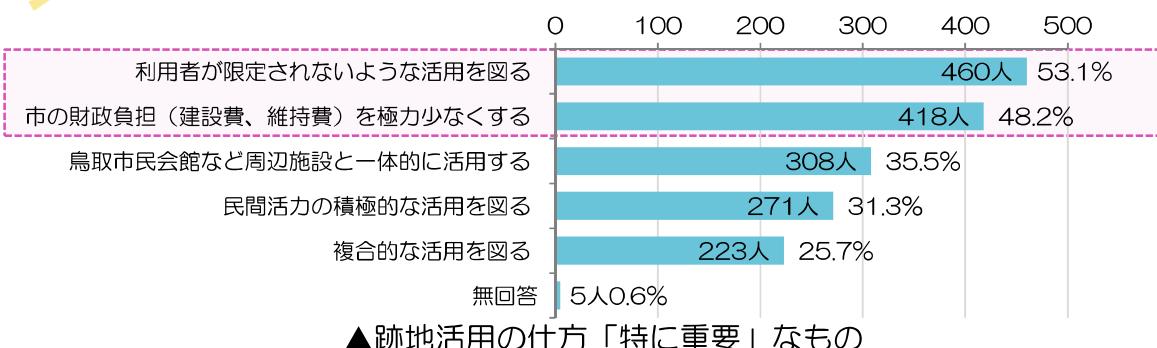
これまでいただいた主なご意見



機能	ワークショップ等でいただいた主なご意見	
	必要	なくてもよい
教育・学習・芸術・文化	カルチャースクール、専門学校、図書館、学習・学習広場、学生交流施設、小学校、美術館（展示機能含む）、文化的多目的ホール、団体の事務局・練習場、音楽ホールなど	学校、博物館、美術館など
医療・福祉・健康増進	子育て支援の場所、屋内で子どもが遊べるスペース、病院もある複合施設、スポーツ施設、スケボー練習場、スケートリンクなど	体育・スポーツ施設など
憩いの場・コミュニティ	コミュニティセンター、高齢者向けサロン、イベント・行事・交流会場、自由に出入りできる屋内スペース、地域食堂、中央公民館など	-
娯楽・レジャー	劇場・映画館・アミューズメント施設、温泉施設、プラネタリウム、みんなが集まる娯楽施設、テーマパーク、砂丘体験ができる場など	ゲームセンター、パチンコ、映画館など
オープンスペース	公園、多目的広場、緑の空間、芝生広場、多機能コミュニティ広場、全天候型イベント広場、用途フリーな多目的施設・広場、自由度の高い広場など	更地、広場など

2

跡地活用の仕方と利用のテーマ



これまでいただいた主なご意見

3

各機能における活用事例



機能	「鳥取市公共施設再配置基本計画」等による基本的な考え方	ワークショップ等でいただいた主なご意見のうち活用が考えられるもの（民間活用が可能）
教育・学習・芸術・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校は、校区審議会での議論等を基に検討など ・広域集会施設（ホール）は、周辺の公共施設との複合化、民間活力の導入、施設総量の縮減目標をふまえ規模を検討など ・文化学習施設は、施設総量の縮減目標をふまえ規模を検討、他の施設の活用（機能移転や複合化等）を検討など ・生涯学習施設は、周辺の公共施設との複合化を検討、既存施設の活用（機能移転）を検討など 	カルチャースクール、専門学校、図書館、学習・学習広場、学生交流施設、小学校、美術館（展示機能含む）、文化的多目的ホール、団体の事務局・練習場、音楽ホールなど
医療・福祉・健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療施設は、既存施設の活用を検討、施設総量の縮減目標をふまえ規模を検討、利用者の推移をふまえ検討など ・保育園（幼稚園）は、人口動態・保護者ニーズ等を勘案した規模で民間活力による更新を検討など ・スポーツ施設は施設総量の縮減目標や鳥取県東部域内の施設配置をふまえ規模を検討、周辺の公共施設との複合化や多機能化を検討など ・地区計画により規制されている施設として、ボーリング場、スケート場、水泳場、スキー場、ゴルフ練習場、バッティング練習場など 	子育て支援の場所、屋内でこどもが遊べるスペース、病院もある複合施設、スポーツ施設など
憩いの場・コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・中央（基幹）公民館は、サービス提供主体やサービス内容などの見直しを検討など ・コミュニティ圏域施設は、地域利用団体へ譲渡し、自由度の高い活用、民間施設・既存施設の利活用など 	コミュニティセンター、高齢者向けサロン、イベント・行事・交流会場、自由に入り出しができる屋内スペース、地域食堂など
娯楽・レジャー	<ul style="list-style-type: none"> ・民間活用も想定。 ・地区計画により規制されている施設として、ホテル又は旅館、マージャン屋、パチンコ屋、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場その他これらに類するもの、キャバレー、料理店、ナイトクラブ、ダンスホールその他これらに類するもの、個室付浴場業に係る公衆浴場など 	温泉施設、プラネタリウム、砂丘体験ができる場、劇場、映画館、アミューズメント施設、みんなが集まる娯楽施設、テーマパークなど
オープンスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・公園施設は、現状維持を基本とし、必要な規模での更新を検討など ・飲食・売店等公園利用者の利便性の向上に資する施設と園路・広場等一般の公園利用者が利用する施設の整備を一体的に整備する者の公募を行う「公募設置管理制度（P-PFI）」活用も想定など 	公園、多目的広場、緑の空間、芝生広場、多機能コミュニティ広場、全天候型イベント広場、用途フリーな多目的施設・広場、自由度の高い広場など



跡地活用に係る市民のご意見

市民参画による検討状況

「現本庁舎等跡地活用に関する検討委員会」（計6回開催）の「旧本庁舎及び第二庁舎跡地の活用策決定までのプロセスに関する報告書」を踏まえ、市民参画のみなさまからご意見を伺いました。

市民参画	開催日	内容
団体意見交換会	令和2年10月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・旧本庁舎等跡地活用に関する基本的な方向性 ・跡地に必要・なくてもいいと思われる機能 ※事前にアンケート実施・整理し、意見交換
市民ワークショップ	令和2年11月1・15日	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地に必要な機能、なくてもいい機能 ・それぞれの優先順位付け
ストリートミーティング	令和2年 10月16・23・28日 11月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地に必要な機能、なくてもいい機能 ※移住定住者、高校生、青年経営者、 とっとり若者地方創生会議別に実施
e-鳥取市役所 個人・団体からの要望	令和2年 10月16日～11月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・舍跡地活用に関する意見・要望
市民アンケート調査	令和3年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地に必要な機能 (特に必要な機能、なくてよい機能) ・跡地活用の仕方、テーマ

ワークショップなどの様子





市民参画によるワークショップ等でのご意見

必要な機能

教育・学習機能

カルチャーセンター、専門学校、図書館など未来を創る人材を育むまちづくり

医療・福祉機能

病院、クリニック、保育所など未来を創る人材を育む・健康でいきいきと暮らせるまちづくり

健康増進機能

スポーツ施設、スケートリンクなど健康でいきいきと暮らせるまちづくり

憩いの場・コミュニティ機能

公民館、コミュニティセンター、自由に出入りできる屋内スペースなど人権を尊重し、ともに築く共生のまちづくり

ビジネス機能

オフィス、飲食店などビジネス環境の変化に対応した生産性の高い活力あるまちづくり

観光・コンベンション機能

特産品展示販売、観光情報発信拠点など人が集う交流と連携のまちづくり

娯楽・レジャー機能

映画館、プラネタリウムなど人が集う交流と連携のまちづくり

芸術・文化機能

美術館、音楽ホール、多目的ホールなど文化芸術の薫りあふれるまちづくり

オープンスペース機能

公園・緑地・広場など快適で暮らしやすい生活環境づくり

生活基盤充実機能

マンション、高齢者住宅、銀行、行政窓口、スーパーなど快適で暮らしやすい生活環境づくり

交通機能

バスターミナル、駐車場など快適で暮らしやすい生活環境づくり

防災・減災機能

避難施設、防災拠点施設など安全・安心に暮らせるまちづくり



ワークショップ
の様子



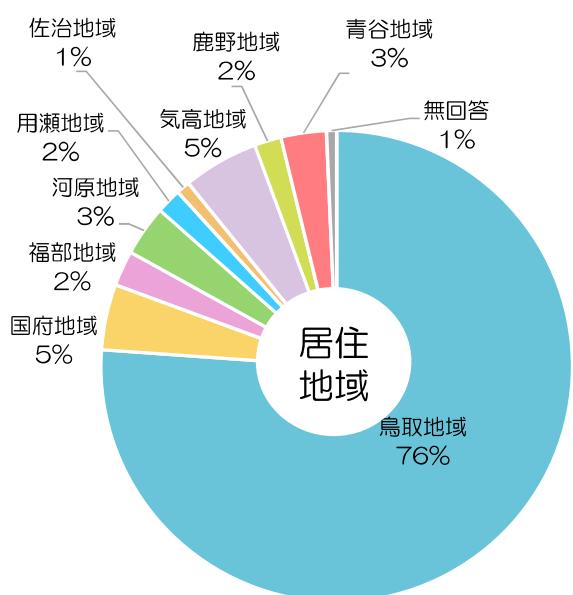
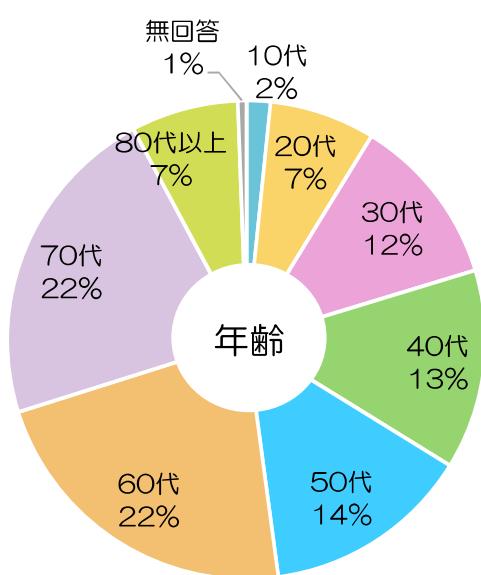
団体意見交換会
の様子

市民アンケートの結果（概要）

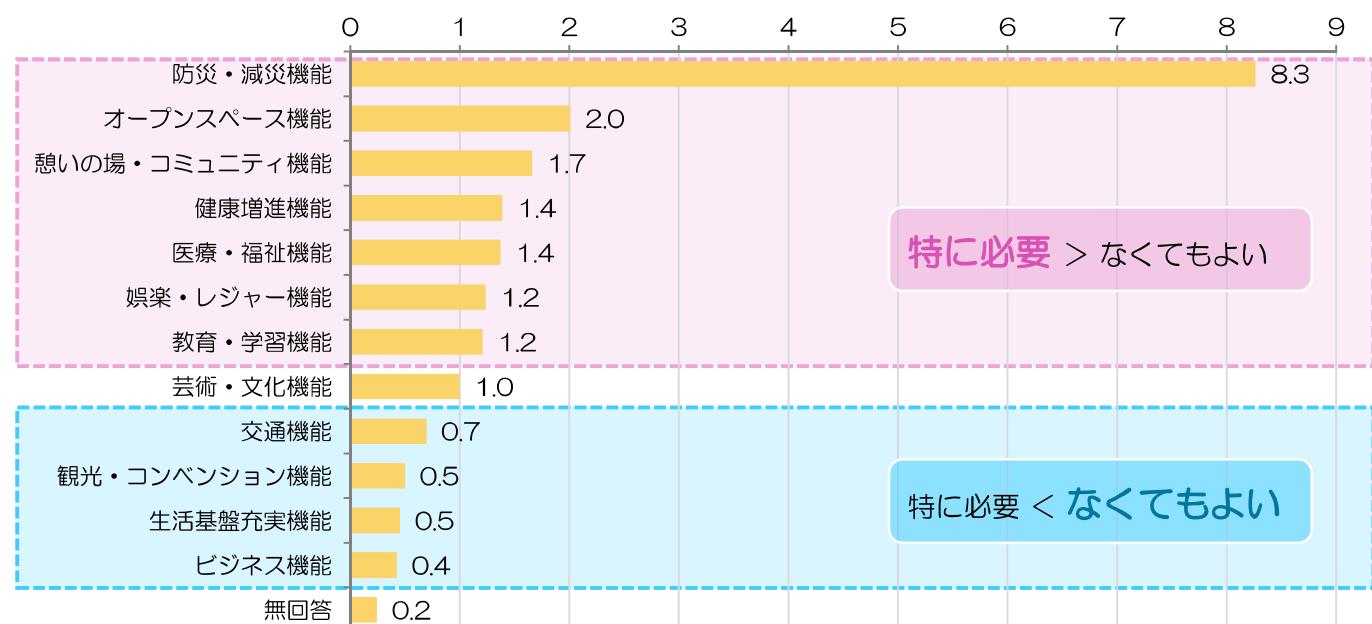
令和3年2月に、旧本庁舎跡地の活用策を検討するため、18歳以上の市民の皆さまを対象に、アンケート調査を実施しました。

実施方法	郵送による配布・回収
対象者	18歳以上の市民2,000人
回答者数	867人（回収率43.4%）

▶回答者の年齢・居住地域



▶跡地に特に必要な機能・なくてもよい機能



▲「特に必要な機能」の回答数を「なくてもよい機能」の回答数で割った数値

►アンケート結果と求められる機能の絞り込み

アンケート結果と求められる機能の絞り込み

►相対的にニーズが高い機能

- | | |
|-------------|----------------|
| ・教育・学習機能 | ・医療・福祉機能 |
| ・健康増進機能 | ・憩いの場・コミュニティ機能 |
| ・娯楽・レジャー機能 | ・芸術・文化機能 |
| ・オープンスペース機能 | ・防災・減災機能 |

►相対的にニーズが低い機能

- | | |
|-----------|---------------|
| ・ビジネス機能 | ・観光・コンベンション機能 |
| ・生活基盤充実機能 | ・交通機能 |

►意見の多かった活用の仕方・利用のテーマ

- ・利用者が限定されないような活用を図る。
- ・市の財政負担（建設費、維持費）を極力少なくする。
- ・若者の流出抑制・定住促進につながる利用を図る。 等

►5つの求められる機能に絞り込み

- | | |
|----------------|---------------|
| ①教育・学習・芸術・文化機能 | ②医療・福祉・健康増進機能 |
| ③憩いの場・コミュニティ機能 | ④娯楽・レジャー機能 |
| ⑤オープンスペース機能 | |

※防災・減災機能はいかなる活用を行う際でも取り入れる。

★★ 今後の予定

活用策の検討

令和3年
5月～6月

跡地活用についての市民参画による検討

- 令和2年度にまとめた「求められる機能」の案をもとに、跡地活用について、市民ワークショップなどの方法で市民みなさまのご意見を伺います。
- （省略）
- （省略）

令和3年
7月～秋頃

跡地活用についての市民アンケート等の実施

伺ったご意見を取りまとめて、市民アンケートなどを実施して跡地活用を絞り込んでいきます。

跡地活用の決定

令和3年度中

跡地活用の比較・検討

跡地活用案を比較・検討し、一定の方向性を示します。



ワークショップや市民アンケートへの
ご協力、
引き続きよろしくお願いします





■問い合わせ先

鳥取市企画推進部政策企画課
〒680-8571 鳥取市幸町71番地
☎:0857-30-8012 FAX:0857-20-3040
E-mail:kikaku@city.tottori.lg.jp



第6回 旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日 時 令和3年5月19日（水）午前10時～11時40分
2 場 所 市役所本庁舎7階 全員協議会室
3 出席者 (1) 委員（Web会議1名）
柳委員長、福山副委員長、飯野委員、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員
(2) 事務局
高橋企画推進部長、河井経営統轄監、平田政策企画課課長補佐

4 内 容

●委員長挨拶

前回、防災・減災機能をベーシックな機能として5つの機能に絞った。本日は、今後の進め方をみなさんと共有したい。市報では、「機能を5つに絞り込んだ」と情報提供していただいている。第11次鳥取市総合計画も策定され重点施策に従って、跡地活用を考えていきたい。今日もよろしくお願ひしたい。

●委員からの主な意見

- 委員 手順・工程表のスピード感やタイミング、期間について、意見・質問等はあるか。
○委員 WSを行い、その後の第7回専門家委員会で活用を絞り込むと書いてある。WSとアンケートの位置付けは。
■事務局 WSとアンケートの違いについて。昨年度も同じようにWSを行い、その後、アンケート調査を行った。今年度も基本的な考え方は昨年度と同様で考えている。WSでは意見をいただき意見をまとめていただきたい。アンケート調査は2000人を対象に行う。定量的な部分も考慮しながら、活用を絞り込む要素としたい。
■事務局 補足する。昨年度WSを行いたくさんの意見が出た。それを12の機能に絞り込んだと思う。今年もWSで活用策がいくつか出ると思うので、それを第7回専門家委員会で昨年12の機能に絞り込んだようにいくつかに絞り込む。それをアンケートで計らしていただくことを考えている。
○委員 前回は機能についてアンケート調査した。今回は跡地活用について絞り込んだアンケートになるという理解でいいか。
■事務局 お見込みのとおり。
○委員 議会へは報告か、それとも審議か。
■事務局 議会に報告をする。そこで意見をいただき、それをもとに鳥取市で結論を出す流れ。
○委員 議会の意見が行程表に与える影響はどの程度か。報告事項ではなく、議会で審議され手順に組み込むと議会の意見がかなり影響するようになるがいかがか。
■事務局 基本的には、この専門家委員会の意見で進める。議会の方には報告をするスタンスであるが、議会でもその都度その都度意見が出ると思うので、場合によってはその意見を取り入れることもあると思う。その時は、また専門家委員会に話した上で進めたいと思う。
○委員 他に意見はあるか。
○委員 第7回専門家委員会の議題が活用策の絞り込みとアンケート内容の協議となっている。この2つの論点を2時間で消化し切れるか若干気になる。進行の工夫をお願いしたい。
○委員 少し気になる点がある。この作業の進め方とも関わるが、この専門家委員会が出した結論が鳥取市の示す一定の方向性と理解してよいのか。通常のように行政側からも腹案ないしはアイディアが提示され、それに対し市民はどう考えたかなど、様々な意見や選択肢が提示される中で合意形成が図られていくと想像していた部分がある。しかしこれまでのところ鳥取市

側から総合的に考えた活用策は1度も出ていない。もちろん、この専門家委員会の意見が鳥取市の意見ですというやり方もあると思うが、どう考えているのか。

■事務局

この専門家委員会でいただいた意見を報告書のような取りまとめをしていただくことになると思う。それは専門家委員会の意見ということになる。それをいただいた上で、市の意見、方針を出したいということ。これは例え話であるが、極端な話、複数の案でまとめていただいてそれを市が最終的に結論を出すこともあるかもしれない。ただみなさまの意見を最大限尊重したいと思う。そしてみなさまの意見のもとになっているのは市民の意見である。まず、市民の方、専門家委員会の意見をいただいた上で、市としての一定の方向性を示す。委員が言われるように、最初から市から腹案を出す方法もあると思うが、今回は、まずみなさまの意見を伺って、その中から活用策を絞り込み、決定するという手順を踏み進めている。

○委員

市としてどんでん返しは無いと理解してよろしいですね。そのうえで質問する。第7回専門家委員会で絞り込みをするときに、跡地活用の費用面や他都市の例、都市機能の集積状況等の情報をもとに活用策を絞り込むと書いてある。これらの情報は、WSのとき市民のみなさまが考える判断材料として提示する必要があるのかどうか、他の委員はどう思われるか。後から情報が出てきて判断するというより市民のみなさんも全く同じ情報で判断する機会を提供する必要はないのか。

○委員

WSのときにどういう情報提供するのかは次の議題で議論する。

○委員

第7回専門家委員会で絞り込むとある。以前、求められる機能を絞り込んだのは、ほぼ網羅的にあった大きな機能を絞り込み漏れている機能は多分なかった。市民の意見が反映されているものを拾ったという認識である。WSの意見が全部ではないし、統計的にもそれが優位になるものではない一部の意見である。それを絞り込むのはこの専門家委員会の仕事ではない気がする。WSは活用策について多くの意見が集まってくるが、専門家委員会はそれぞれの委員がそれぞれの専門の視点で、例えば足りてないところとか、補足すべきところとか、勘違いしていることとか、そういうところを眺めてみて、アンケートをするのかどうかも含めて、その内容を吟味するイメージでいいか。絞り込むというよりは、活用策の幅を削ることはないかもしれないが、ここで補足したり、リストを整えるみたいなイメージでいいか。

■事務局

言われることはよくわかった。第7回専門家委員会の上に活用策を絞り込む、アンケート内容を協議とある。今、言わたしたことからすると、例えば専門の立場・視点でアンケートの内容を協議という1つにくくくれると思うがいかがか。

○委員

そのとおり。活用を整理して一定の方向性を示すということ。絞り込むのではなく整理をして一定の方向性を考えようというのがこの趣旨。スピード感はどうか。

スピード感はこれぐらいだと思う。

スピード感とか、この流れで議論を進めるなど意見があるか。

WSの意見を絞り込むというより整理するということ。専門家委員会でも案を作る。それについて検討していただくのはどうか。

■事務局

新たな提案であった。他の委員の意見はいかが。市はみなさまの意見としてそれがいいということであれば差し支えない、

○委員

委員が、次回2時間で大丈夫かと言われた意図はそこにあったと判断した。我々一人一人も、何らかの形で意見が提示できるような形にしようと思うと、次回2時間では難しいのではないか。

○委員

2つの論点だと2時間では厳しいと感じた。WSを今回この場で検討して、次回その内容を元に整理をしていくということなので、先ほど委員が言わされたとおり、絞り込むというよりはWSの内容を咀嚼した上で、この専門家委員会としての見解を整理していくことでいいと思う。

○委員

7月の第7回専門家委員会の時間を長くやるのか、それとも1・2回やるのか、両方の意見が

あると思うがどうか。

○委員 この段階で、2回に分けるかどうかだが、その通りにならない可能性が高い。2回に分けて進めることをイメージされて進めるというぐらいでいいと思う。

○委員 他の委員はどうか。委員が言われるよう 2 時間では難しい。4 時間するのか 2 時間で 2 回に分けるか市にフィードバックしたいと思う。

○委員 市民の方が 100 分の WS で方向性を出すのであれば、私たちが倍ぐらいでしなければいけないが、それは相当難しいことだと思う。WS の意見を再整理する位置づけであれば 1 回でいい。それをもとに作り込むのであれば 2 回は必要と思う。

○委員 私も 2 回だと思う。

○委員 市も臨機応変に考えるということで、今のところ、第 7 回専門家委員会は 2 回でどうか。

○委員 今の話を伺い 2 回かなと思う。インターバルがあった方がいい。ぶち抜きで 4 時間より 2 回に分けた方が自分で整理しやすい。

○委員 手順について、第 7 回専門家委員会は 2 回に分けて行程表を修正し、また送っていただければと思う。次の議題は WS。ファシリテーターもいるとのこと。資料も含めて議論したい。

■事務局 資料 2 説明

○委員 ポイントがいくつかあった。まずはグルーピングだが、その前に何人集まれば、WS として成立するのかという話。だから、参加人数をきちんと集めていかなければならない。次に配布する資料。年配の方いるのでこれだけの資料を読むのは大変。議論してもらう資料と参考資料と分けるなど議論が必要。まず市に何人集めれば WS が成り立つか。

■事務局 WS の参加者数の下限をここでお示しすることはできない。専門のファシリテーター、コンサルと議論し改めてお知らせしたい。委員から意見をいただけると参考になる。

○委員 地域・年代別は議論しないといけない。現在の応募状況は。地域、年代はどうなっているか。人数は現時点で 10 名、地域は旧市内という状況。

○委員 その人数であればここで議論しなくても様子を見て調整すればいい。
○委員 形式的には人数とグルーピング。例えば、跡地から何 km で分けるとか、年齢別についてはファシリテーターと市で方向性を示してもらえばいいが意見はあるか。

○委員 プロのファシリテーターがいれば任せればいいと思う。
○委員 形式はファシリテーターと市で意見集約しやすい方法で議論していただくということでいい。
○委員 資料 2-1 P6 番。「青色で頻度が少ない」と「活用策として必要ない」という意見に繋がらないか心配。「頻度が多いから必要」とうことではない。青色で頻度を取り上げた理由は。この議論で必要な活用を議論できるのか。

○委員 青い青色の部分とピンク色の部分の意図は。

■事務局 最終的に必要と思われるものは、ピンク色の部分で最終的には示していただく。その前段としまして、青色の部分は、各個人がどのような活用をしているのか、また他の人の活用状況を整理したいと考えている。頻度の多い少ないを問う意図はない。

○委員 関連性はないということか。

■事務局 そういう意味での関連性はない。

○委員 分かった。そうであるならば逆にこれをどう使うか。頻度よりも「なぜ必要なのか」書いてもらう方が我々も議論できる。

■事務局 青色の部分が直接的に結果に結びつく場合もあるかも知れないが、班としてまとめていくときの一つの要素。

○委員 青色の頻度と桃色の必要な活用で理論矛盾が出てくる。もう一度考えた方がいいか。

○委員 例えば、教育・学習・芸術・文化機能のカルチャーセンターを「今、皆さんはどうにお

使いか。」その中で「どういうところに不満、不足、問題点があると感じているか。」を出してもらうと、それがそのまま次の「必要と思う跡地活用」を考える際に、不満、不足をどのような形で補うことができるかに結びつくと思う。おそらく堤委員が言わされたのはそういう意味だと思う。そうすれば次のステップとして、公共でなければ提供できないサービスかどうかをスクリーニングにかけられる。つまり、民間でやれるなら民間に任せればいいし、公共が本当にやらなければならないことかどうかを市民の皆さんも考えることができる。そうすると公共がやらないといけないことの中で、どういったものを具体的に整備していくのか専門家委員会で議論もできる。市民のみなさんへの新たなアンケートの提示の仕方・整理もできると考える。これは堤委員も同じ発想ではないかと思う。

○委員

おっしゃるとおり。

○委員

同じようなことを思っていた。例えば、「活用したいけど活用できない」とか、「もっと活用しないけど何か不安があるからあんまり行かない」とかが間にいると、必要と思う跡地活用について、必然的に「既存の施設が使えるのであれば、それを改良したら今の不安を解消するのであれば新しく改良を行う。」となる。そうなると繋がり切り離せないので間が欲しい。

○委員

みなさんどうか。

○委員

みなさんがおっしゃるとおり。

○委員

意見を集約すると青色の部分と桃色の部分の繋がりを明確にしてほしいということ。例えば「活用しない理由」、「近くにない」など、運用を考えて青色から桃色にもっていってほしい。プロのファシリテーターの方と考えていただいたらと思う。

■事務局

青色と桃色に繋がりを持たせることができるように検討したいと思う。

○委員

WS の進め方はもう一度検討し直していただく。次に市民に提供する[資料 2-2]。財政、人口減少が書かれている。小冊子にまとめられているが、絞ってわかりやすくした方がいいとか議論していただければと思う。入れるもの、別冊にするもの、いらないものの整理をしてはどうか。

○委員

情報はすべて[資料 2-2]に入れた方がいいが、これ以上資料があっても読まない。フォントを統一すると整理できる。市が情報を出したいのも理解できるし、本来議論するとき情報を出すことは大前提。「鳥取市の将来」というタイトルだが「WS 資料」と書いてほしい。整理の流れも示した方が市民は分かりやすい。情報としてはいっぱいいっぱい。重複しているものはまとめるべき。

○委員

この資料を一般の市民がもらったとき、これでどう判断できるのだろうか。我々は普段からこういう資料を見慣れているし、数字が具体的に何を意味するか一定の理解があるのでそれほど違和感がなくいろんな意見を言うことは可能だ。一般の市民が判断を求められたときこの資料の作り方で果たしていいのかなと思っている。例えば、興味のある方はインターネットで、「跡地活用」、「市庁舎」等のキーワードで全国の他都市で同じような問題に直面したところが、どのような跡地活用をしているか検索すると思う。そうすると、具体的に民間で活用するとはこういうことなのか、複合的に活用するにはこんなやり方もあるのか等、様々なアイディアを知ることができる。私自身もそれをヒントに、もし鳥取市で防災をベースにいろんな機能を付加するのであれば、こんなやり方があるのではないかと想像力を働かせることができると思う。そういう意見を市民のみなさんには出していただきたい。我々専門家委員会がしなければいけないのは、それを実現する際の様々な制約条件、例えば鳥取市の財政状況を考えた際の実現可能性はどうか、クリアしなければならないハードルは何かなどを整理し、次回の市民アンケートの選択肢や何が鳥取市にとって最もふさわしいのかについて関心を持っていけるような立て付けを行う必要がある。しかし、今のところ市はそういう考え

方ではなさそうである。以前の委員会で他の地域での庁舎等の跡地活用事例という資料が提示されすごく参考・勉強になった。こういう資料も附属資料としてみなさんご覧になって、参加していただくのがいいのかなと思う。本編の資料としては、さすがにこれ以上つけるのは厳しいので、そういう資料を提供してもらえると市民のみなさんにとっては、より意見が言いやすいのかなということを付け加えたいと思う。

○委員

カラフルでよくできている。インターネットで調べ方は、いろいろ情報お持ちだと思うが、これを初めて見た人に財政規模 1000 億円弱と言われてもピンとこない。参考事例をあげるのであれば、この施設にいくらかかったが必要。一般の方が見た時にピンとくる数字のイメージがしないと思うので、活用策を参考であげるのであれば、かかった費用があればわかりやすいと思う。資料はよくできている。

○委員

資料 2-2P4 の下から 3 つ目「歴史・文化ゾーンにふさわしい利用については、市民アンケートで多くなかつたため、その利用に限定しない」とある。違和感がありいらないと思った。アンケートの 5 項目の中で最下位だったので外されるとのこと。住民意見は重要だが、都市計画で市としてそういうところにしていくことなので矛盾する。まちづくりは、歴史、文化、風土、風格とかが非常に重要だと思う。庁舎はなくなるが、その前の歴史も当然ある。この周辺に住んでいる方は、それを引き継いでこられている方もおられる。跡地には薬研堀もあったし雰囲気も残っている。そのエリアの歴史も含めた経緯も WS に参加する方に説明し、単に鳥取市の中心地が空いたということではなく、経緯も伝えられるといいと思う。

○委員

資料のボリュームはこれぐらいでいいという話。資料で何を伝えたいか明確にした方がいい。資料にストーリー性を持たせて見ていただいた方がいい。資料で最初に旧本庁舎の概要、その後に財政があって、その次に本題に入る流れでいいのか。まず本題を出して、その後に財政・人口・土地の規制を出すのか、皆さんの意見を参考にまとめていただいて、もう一度、練り直していただいたらいかなと思う。

■事務局

ものすごく参考になる意見をいただいた。気付かないところがたくさんあった。いただいた意見を反映させていきたいと思う。

○委員

資料 2-2P4 が、これまでの議論、それぞれの活用策に関しての現時点での専門家委員会で話し合われた中で評価軸だと思う。それを WS の中で市民に伝えた上で考えていただくと、前半の部分で土壤をうまく作っていただけるといいのではないかと思う。市民の方の属性がわからないところもあるので、この資料を一通り説明して考えましょうと言われても、情報を咀嚼するのに時間がかかるってしまうと思うので前半の説明の導入の部分で工夫してほしい。

○委員

WS を始める前にファシリテーターの方に、鳥取市の状況をよく理解していただきたい。どこにどういう施設があり、どういう意見があつてということをファシリテーターに理解していただき、それを WS の方への確に伝えていただく。資料について、フォント・絵を使うなど工夫して、年配の方にもよく理解できるように考えてほしい。

○委員

なぜ議論をするのかの説明とこれまでの経緯、どういう進め方で決めていくのかがあるといいと思う。

○委員

WS の仕方で、青色と桃色の繋がりを明確にしていただく。資料 2-2 をもう少しわかりやすく絞り込んで見直していただきたい。ファシリテーターの方にも十分、状況を理解していただきて、例えば横に病院があるのにまた病院という話もないし、そういうことも考えて進めていただきたいと思う。

○委員

WS の参加が現時点で 10 名ということで、成立要件についてはコンサルの方と検討いただくということである。この WS の位置付けとし、この WS を通じて得られた情報を元に専門家委員会で整理していくための材料を集めるために WS を開催するということなのか、もしくは市民参加の意識を高めていく意味で開催していくものなのかによって、母集団の取り方とか、

参加してもらう方の属性の設計が結構変わってくると思う。今は不特定多数、無作為に募集して 10 名と理解しているが、場合によって個別に声をかけて集めていく等の作戦がもしあれば聞きたい。

■事務局

WS については、現時点で、不特定多数、すべての市民の皆様に案内をしているところ。今のところ、個別での声かけという考えは、鳥取市として持ち合わせていない。あくまで、広く市民の方々から意見をいただきたいということで、現時点では不特定多数としている。募集は 5 月 31 日まで。引き続き、周知、PR に努めて参りたいと考えている。

○委員

WS は市役所と福祉文化会館で合併した町村ではやっていない。WS だから集まって対面でやるのが基本だが ZOOM はどうか。

○委員

講義ではブレイクアールームという機能を使ってやっている。参加者を少人数に分け、それぞれで議論してもらい、結果を報告してもらうやり方ができるが、ある程度ホストが慣れてないと大変である。やってやれないことはない。例えば、高校生、大学生の意見を聞きたいとか、比較的 IT に慣れている方に対して呼びかけをして、参加できる方はぜひ参加してみてくださいという形はあってもいいかもしれない。参加者が 3 日間で 10 人とあった。1 回が数人の可能性がある。人を増やす方法ないしは違う機会を作っていくことも必要。多くの市民のみなさんの意見を聞く市役所の姿勢をいろんな形で出していくことが、合意形成においてはすごく大事なことになるので、またぜひ検討いただければと思う。

○委員

市の WS の目的が市民から広く意見を聞くとあった。当然、目的を明確化してやるということ。もし目的が広く意見を集めることであれば、現状の 3ヶ所で 10 名ではその目的を果たせないのは明らかなので考え直した方がいいと思う。その目的を果たせるような方法にどこかで切り替える必要がある。

○委員

委員が専門家委員会に ZOOM で参加し意見されている。WS は、集まってやった方がいいか。それとも少人数であれば他の方法を考えた方がいいか。

○委員

ZOOM だとやり方を考えた方がいい。コロナの状況なので何らかの手段、工夫はしてもいい。できるだけ多くの人に意見をしっかり聞くということに合わせて作戦を考えた方がいい。サインントマジョリティ、意見はあるが言わない人もいる。それをどう拾うかが重要。

○委員

参加者を増やす工夫いるのかなと思って聞いていた。普通でやるにしても、一人一人 10 人を入れなくとも 3 人ぐらいで集まってもらう。例えば、うちに 5 人ぐらい来てもらって、そこでグループワークして繋がったら、そこで小さなグループができるのでもいいのかなと思って聞いていた。

○委員

IT を使う工夫が必要。人が集まらない場合、市はどう考えるのか。

■事務局

市も参加者を増やすことを考えたいと思う。ただ、個別に特定のところに声をかけるということが、バイアスがかかることもあると思うので、そこはなるべく広くというか、どういった方法でどうするのか考えたいと思う。すでに 10 人の応募をいただいているので、中止は不適切だと思う。実施はするが、例えば 3 会場 1 つに集約する、参加者を増やす努力をさせていただきたい。そして人数が思ったほど多くないとなれば、別の方法も考えたい。最終的には市民アンケートで伺うことを次の段階では考えている。そういうことで、多くの方の意見は伺うこともあると思うが、再検討させていただきたい。

○委員

宿題がいくつか出たので、資料作成をお願いする。

■事務局

次回の開催日程について。第 7 回は 1 回なのか 2 回なのか時間はどうするのかと意見をいただいた。一度整理し、改めて日程調整をさせていただきたいと思う。

○委員

全体を通じ意見、質問はあるか。

○委員

提案。次回の委員会を 2 回に分ける話もありながらである。委員が言われたが、WS の意見は咀嚼して整理することが必要。この専門家委員会では、せっかく忙しい先生方が集まっている

るので、専門家委員会としての活用策について、アイディア、案、シナリオを次回の委員会までに、みなさんからいただいて、まとめていくはどうか。提案であるがいかがか。

○委員

■事務局

専門家委員会の位置付け、運用の提案があつたがいかがか。

みなさんからの意見が伺えればそれに越したことはない。もちろんそれは市民の方の意見が参考でとしてバックにありながらということになると思うが、ありがたい意見である。

○委員

○委員

今の委員の考えでよいか。

今、委員のおっしゃられたのは、我々も何らかのアイディアをそれぞれ持ち寄ってもいいのではないかという指摘。それには賛成。いろんな選択肢が増えることは良いこと。

○委員

一応、我々の意見というのはあることはある。市民の意見に立った上での意見ということ。民間を活用するかどうかは次の段階。今回は活用方法で意見を聞く。そのあの運用については次回以降取りまとめましょうということ。

■事務局

少し日程について補足をさせていただきたい。資料1で、7月頃、第7回専門家委員会。委員会は2回程度必要ではないかという意見もいただいている。7月ごろ第1回目は、7月上旬には開催できるように努力したい。本日はありがとうございました。次回委員会もどうぞよろしくお願ひしたい。